

ユキノシタ科 ユキノシタ属

ユキノシタ (雪の下)

Saxifraga stolonifera Curtis

自生環境

林内、岩場 など

原産地

日本在来

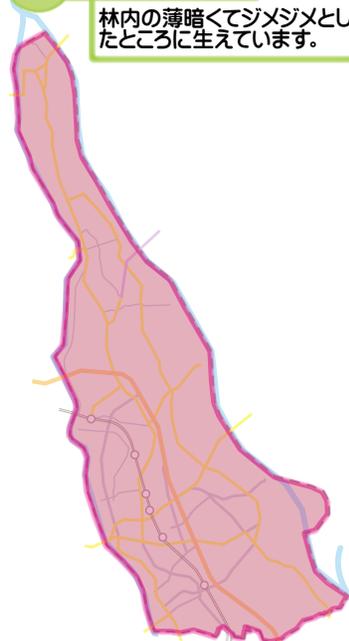
生育を脅かす要因



市内のものは真の自生ではなく、かつて栽培されていたものの名残かもしれません。林内の薄暗くジメジメとした環境を好み、乾燥や直射日光が苦手な傾向があります。

市内の分布状況

林内の薄暗くてジメジメとしたところに生えています。



特徴

- ☆ 山地のうっそうとした林内、または常に濡れていて苔むしているような岩場や崖などに自生する多年草です。一方で古くは定番の民間薬で、各家庭の庭の隅などによく植えられていました。今は薬用として使われることはなくなり、すっかり忘れ去られたような存在となっています。葉は山菜として食べられます。
- ☆ 常緑で1年じゅう青々とした葉をつけます。葉は葉脈に沿って白い模様が入ります。株もとから赤い走出枝を出し、その先に子株をつくりながら増えていきます。日の当たらない場所でもよく育つため、庭の小草として見直したい日本の野花です。
- ☆ 5～6月ごろ、株の中心から高さ 20～50 cm くらいの茎を立ちあげ、多数の白い花を咲かせます。花びらは5枚で、上3枚が小さく、下2枚が大きいというとてもユニークなかたちをしています。上3枚の花びらには模様があります。

ユキノシタは雪の舌?

ユキノシタの名前の由来には諸説あります。代表的なのはたくさん咲いた白い花を雪に見立てて、その下に葉があることから「雪の下」とする説ですが、常緑なので冬も雪の下に青々とした葉があるからとする説もあります。中には「雪の下」ではなく「雪の舌」だという説もあります。雪の舌の花びらは下側の2枚が舌のように長く、なおかつ雪のように白からというのがその理由です。



花茎には葉がつかない

湿った岩の上によく生える



上3枚の花びらには模様がある

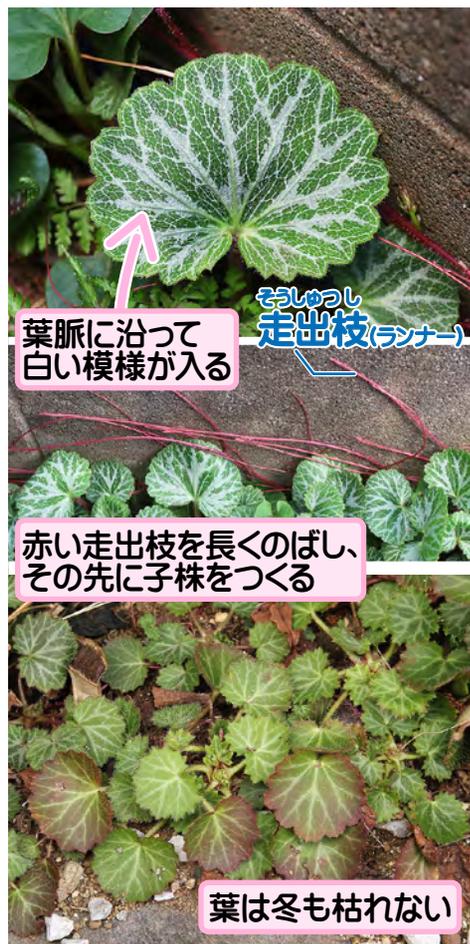
花びらは下2枚が大きい



がくは5枚でさわるとべたつく



果実の中には小さなタネが詰まっている



葉脈に沿って白い模様が入る

赤い走出枝(ランナー)

赤い走出枝を長くのばし、その先に子株をつくる

葉は冬も枯れない



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

